

地方共助社会づくり懇談会 in 福島

～福島の復興に向けた市民活動の動向～

共に学び、
共につくる。

共に学び、
共につくる。

共助社会づくりを担う市民活動団体等の活動基盤やネットワークをいかに強化するかについて、東日本大震災の経験をふまえて、福島県の共助社会のあり方について、議論を深めながら皆さんと共に考えます。

後援／福島民報社・福島民友新聞社・NHK福島放送局・福島テレビ・福島中央テレビ・福島放送・テレビユー福島・ラジオ福島・ふくしまFM・株式会社東邦銀行・株式会社福島銀行・株式会社大東銀行・福島信用金庫・福島県商工信用組合・東北労働金庫福島県本部・日本政策金融公庫南東北地区統轄福島支店

主催／内閣府・福島県
認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター

問い合わせ先

事務局／ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043 福島県福島市中町8番2号 福島県自治会館7階
TEL.024-521-7333 FAX.024-523-2741

E-mail saposen@f-npo.jp

URL <http://www.f-saposen.jp>



平成26年

11月8日(土) 13:30
16:10

コラッセふくしま 多目的ホール
福島市三河南町1番20号 TEL.024-525-4089

福島開催にあたって

内閣府では昨年度より地域の絆を活かした共助の活動を推進するため、経済財政政策担当大臣のもと、有識者による「共助社会づくり懇談会」を開催しています。「共助社会」とは、行政だけでなく住民組織やNPO、企業など多様な主体によって地域を支えていく社会です。

「地方共助社会づくり懇談会」は、内閣府の「共助社会づくり懇談会」の委員が各地に出向き、実際の地域社会の実情をもとに、現地の方々と意見交換するものです。福島では、東日本大震災を契機にNPO・ボランティアをはじめとする市民活動が活発化していることから、福島の復興に向けた市民活動の現状と課題や今後の可能性などについて議論し、これからの目指すべき共助社会のあり方を考えます。

基調講演

「共助社会づくりについて」



奥野 信宏 氏

中京大学総合政策学部教授／共助社会づくり懇談会座長
1945年生まれ、島根県出身。中京大学理事・教授、公共経済学専攻、経済学博士。京大院修士終了。名大経済学部教授・学部長、同大副総長等を経て現職。国土審議会会長、共助社会づくり懇談会座長等。著書「公共の役割は何か」（岩波書店、2006年）、「地域は「自立」できるか」（同、2008年）、「公共経済学第3版」（同、2008年）、「新しい公共を担う人びと」（共著、同、2010年）、「都市に生きる新しい公共」（共著、同、2012年）他。

開会挨拶 13:30～13:35

福島県文化スポーツ局長 **鈴木 千賀子**

基調講演 13:35～14:05(30分)

「共助社会づくりについて」

奥野 信宏 氏

(中京大学総合政策学部教授／共助社会づくり懇談会座長)

事例紹介 14:05～14:35(15分×2名)

「福島県における東日本大震災後の市民活動団体(NPO法人)の取組紹介」

大澤 康泰 氏 (特定非営利活動法人ふよう土2100事務局長) [いわき市]

岩崎 大樹 氏 (特定非営利活動法人コースター代表理事) [郡山市]

休憩(10分)

パネルディスカッション 14:45～16:10(85分)

「福島の復興に向けた市民活動の動向」

【ファシリテーター】 奥野 信宏 氏 (中京大学総合政策学部教授／共助社会づくり懇談会座長)

【パネリスト】 大久保 朝江 氏 (特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる代表理事／共助社会づくり懇談会委員)

星野 珙二 氏 (認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター理事長)

鎌田 千瑛美 氏 (一般社団法人ふくしま連携復興センター前理事兼事務局長
NPO法人蓮笑庵くらしの学校 古民家再生プロジェクト代表)

鈴木 典夫 氏 (福島大学行政政策学類教授／福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
地域復興支援部門地域復興支援担当(ボランティア育成))

閉会挨拶

共助社会づくり懇談会座長 **奥野 信宏 氏**

※プログラムの内容・時間は予告なく変更になる場合があります。

事例紹介

「福島県における東日本大震災後の市民活動団体(NPO法人)の取組紹介」



大澤 康泰 氏

特定非営利活動法人ふよう土2100事務局長

1969年郡山市生まれ。地元企業に約20年勤務した後、平成23年11月にNPO法人ふよう土2100を代表理事の里見喜生とともに立ち上げる。東日本大震災の教訓を次世代に語り継ぐ研修プログラムを23年12月から実施し、語り部として全国各地からの来県者に福島のいまの姿を伝えている。また、平成24年5月に被災地の障がい児家族支援事業のために、郡山市内に「交流サロンひかり」を開設。自閉症や発達障害の子どものための支援に取り組んでいる。

【特定非営利活動法人ふよう土2100】

平成23年11月設立。東日本大震災後、地震・津波・原子力災害の経験を多くの人に伝え、これからの人のための教材にしてほしいという思いで、被災地の現場に足を運んで自分の目で見て感じてもらう研修プログラムを実施するほか、郡山市内に「交流サロンひかり」を開設。私たちの世代が、未来の子どものための環境づくりのために「有機腐葉土＝肥やし」となり、多様性のある人々が安心して過ごせる社会づくりの実現を目指して活動しています。



岩崎 大樹 氏

特定非営利活動法人コースター代表理事

1976年郡山市生まれ。ランドスケープデザイン事務所勤務を経て、家業のガラス加工業に従事。2003年～持続可能なまちづくりを研究・実践するNPO法人「サステイナブル・コミュニティ研究所」の活動に参加。2007年～郡山市を拠点にする市民活動の中間支援組織「福島県中地域NPOネットワーク」の理事として活動。東日本大震災の後、「ふくしま連携復興センター」の立ち上げに参画。2008年～若者のエンパワーメントと社会参画の促進を目的としたコミュニティスペースを運営。2012年に人材育成や社会教育、復興支援等を行うNPO法人コースターとして法人化。代表理事を務める。

【特定非営利活動法人コースター】

2008年に代表の岩崎と若者支援NPOの職員、地元大学のボランティアサークルの学生たちで始めたコミュニティスペースでの活動が母体となり、震災を経て2012年10月に設立。内閣府地域社会雇用創造事業の支援を得て、翌13年の3月1日に法人化。コースターは、①地域社会の担い手育成と、②彼らが活躍できる環境づくり、また、③将来にわたり地域社会に関心を持ち続ける若者を増やす、という3つの軸で事業を行っています。それぞれ①はコミュニティスペースの運営と講座や研修であり、②は「田村市復興応援隊」等の復興支援の現場づくり、③は中高生向けの社会教育プログラムです。

パネルディスカッション

「福島の復興に向けた市民活動の動向」



大久保 朝江 氏

特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる代表理事／共助社会づくり懇談会委員

市民活動歴24年。1999年より同代表。1999年より杜の伝言板ゆるる編集部の代表、2003年NPO法人杜の伝言板ゆるる代表理事に就任。1997年仙台市市民活動支援策検討委員会委員のほか、2004年より10年間、宮城県NPO活動促進委員会を務めたほか、2013年4月より内閣府共助社会づくり懇談会委員を委嘱されている。1998年～2001年の間、3度に亘り、米国テラウェア大学のNPOマネジメント研修に参加。2012年4月より日本NPO学会理事。2005年4月よりみやぎNPOプラザのNPO法人設立・運営等の専門相談を担当しているほか、自治体や行政のNPOに関する講座や講演等で講師を多数務めている。



星野 珙二 氏

認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター理事長

1974年福島大学経済学部へ赴任。現在福島大学名誉教授。経済学部および共生システム理工学類において経営工学分野で教鞭をとってきた。かたわら、地域づくりの活動にも参画し、2000年8月に中間支援組織「特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター」を立ち上げ、理事として、また2013年からは理事長として活躍している。



鎌田 千瑛美 氏

一般社団法人ふくしま連携復興センター前理事兼事務局長
NPO法人蓮笑庵くらしの学校 古民家再生プロジェクト代表

1985年南相馬市生まれ。2011年3月、勤務していた東京のIT企業を退職し、フリーランスとして復興支援に従事。11年11月に福島女子によるコミュニティ団体「peach heart」を立ち上げ、代表となる。12年1月にUターンし、ふくしま連携復興センターに勤務。12年7月～13年6月まで事務局長を務め、14年6月まで理事として従事した。現在は、コミュニティコーディネーターとして、NPO法人蓮笑庵くらしの学校古民家再生プロジェクト代表、女子の暮らしの研究所運営メンバーなど、複数プロジェクトに参画中。



鈴木 典夫 氏

福島大学行政政策学類教授／福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
地域復興支援部門地域復興支援担当(ボランティア育成)

1961年生まれ。主な研究分野は地域福祉、コミュニティワーク。阪神・淡路大震災で京都市社会福祉協議会地域福祉活動専門員として支援業務を行う。福島大学に赴任後は中越地震、中越沖地震、岩手・宮城内陸地震の長期的支援を行った。東日本大震災では福島大学の避難所開設・運営にあたり、中心的な役割を担うとともに、福島大学災害ボランティアセンターの顧問として、学生とともに被災者支援に取り組んでいる。

MEMO